

大学のPBLにおける支援ツールに関する一考察

桑田 佑輔[†]

飯島泰裕[‡]

青山学院大学大学院社会情報学研究科[†]

青山学院大学社会情報学部[‡]

1. はじめに

近年、大学においてPBL (Project Based Learning) が普及している。PBLとは、「課題解決型授業」であり、座学とは一線を画するものである[1]。PBLでは、与えられた課題に対して、学生が自主的に課題解決手法を考案する。企業においては、新入社員教育に実施されるOJT (On the Job Training) に含まれていることがある。

本学では、チーム単位のPBLが、授業の一環として行われている。その中で、一般的に企画立案の際に必要なと考えられている「多数のアイデアの生成」が、学生の間では充分行われていない。また、一度考えたアイデアを、その後有効に利用しきれず、企画の十分な質の高度化が出来ていない。

本研究では、多数のアイデアを生成させ、企画立案の際に意識すべき複数の項目を与え、与件の整理から企画立案までの質を高める要件分析を行った。また、複数の教員間での指導状況の共有を行うこと、他のチームとの競争意識を与えること、企画立案の過程を可視化すること等を目的とし、Salesforceを導入し、PBL支援ツールを構築している。

2. PBLによる企画創造能力の取得

本研究では、PBLを通して大学生に企画創造能力を取得させることを目的としている。大学生に企画創造能力を取得させるために、PBLに取り組みさせる方法について検討した。そのためにPBLを通して、大学生に、企画創造能力を取得させるためのツールを作成し、その有効性について検討する。

3. 企画作成手法

企画に関して、多湖は以下のことを述べている。「企画とアイデアは違う。アイデアは単発で存在しうるが、企画はそんな単純ではない。アイデアは、その時点では必ずしも実現可能なことではないが、企画は現実的な企業目的と密着して、近い将来において実現可能性を示していなければならない。企画は方向性を持った創造であるという点でアイデアとは異なっている。アイデアは実現の当初において、必ずしも方向性を必要としない。方向性のないアイデアに方向性を与え、これを企業目的に集約させていくところに企画は成立するのである」[3]。

多湖は企画とアイデアの分離について述べているが、アイデアの定義¹から、多湖氏の述べるアイデアにはアイデアとアイデア未満のものがある。本研究では、アイデア未満のものを思いつきと銘打ち、思いつきをアイデアに、アイデアを企画に昇華させることで企画を作成する手法を取ることにした。その際、昇華の判断基準として、一般的に企画に必要なものを諸所からリストアップし、チェック項目を作成した(表1.2)。この項目を満たさせるためのツールとして、企画創造シートを作成した(図1)。

表1. アイデア作成のためのチェックポイント

- 与件に対する理解は正しい
- 新規性が存在する
- コンセプトが明確である
- ターゲット(誰に、何を、いかに)が明確である
- 定性的な根拠がある

表2. 企画作成のためのチェックポイント

- 成功基準が明確である
- 資金に見合った計画である
- 実現可能なスケジュールが組めるか
- 実現性がある

A Study of support tool for project based learning in a university
Kuwata Yusuke[†], Graduate school of Aoyama Gakuin University
Iijima Yasuhiro[‡], Aoyama Gakuin University

¹既存の要素の新しい組み合わせ。解消できたらよいと思える着眼点。

企画創造シート			
テーマ: 大学生に本を読ませるには	シートNo.1	発案者: 飯島	6月 2日
ポストイト: (大学図書館で本を借す) (電車で本を読まず、スマホ) (電子書籍) 利用/総数: 3枚/100枚			
思いつき: 紙の本は読まないが、電子書籍なら学生は本を読む			
◎与件に対しての理解は正しい 理由(全く本を読まない大学生の割合は4割を超えている)	(調査者 香川 6月 3日)	論拠データ	No.9
◎新規性が存在する 理由(大学生で、電子書籍を使った経験のある人は少ない) (大学における電子図書館の設置は、少ない)	(調査者 東 6月 2日)	論拠データ	No.2 No.9
◎コンセプトが明確である 理由(電子書籍を使って、紙の本から離れた学生に本を読ませる)	(調査者 勝谷 6月 3日)	論拠データ	No.11,12
◎ターゲット(誰に、何を、いかに)が明確である 理由(大学生に、電子書籍を、紙の本の代わりに使わせる) (電子書籍市場は拡大傾向にある)	(調査者 東 6月 2日)	論拠データ	No.14 No.1
◎定性的な根拠がある 理由(紙媒体の本より、大学生に受け入れやすい) (紙の書籍の物理的な不便さや、取得の手間の解消)	(調査者 飯島 6月 5日)	論拠データ	No.16 No.3
↓全ての項目がチェックされている↓			
アイデア: 大学生に、電子書籍で本を読ませる			
◎成功基準が明確である 理由(大学生の年間読書率を、電子図書館設置前より20%高める) (数値根拠についてはデータNo.4、8参照)	(調査者 高村 6月 4日)	論拠データ	No.4 No.8
◎資金に見合った計画である 理由(導入、運用のコストは、捻出が可能である) (大学に対してヒアリングしたところ肯定的で、予算の見通しがつく)	(調査者 南部 6月 7日)	論拠データ	No.5,8 No.13
◎実現可能なスケジュールが組めるのか 理由(詳しくはデータNo.10のガントチャート参照) (目標である3年以内に十分実行が可能である)	(調査者 香川 6月 4日)	論拠データ	No.10 No.17
◎実現性がある 理由(異なる集団で、近い成功事例が存在) (近い将来、電子書籍の普及が予想されている)	(調査者 飯島 6月 9日)	論拠データ	No.13,15 No.7
↓全ての項目が定量的にチェックされている↓			
企画: 大学電子図書館設置による学生の読書の促進方策			

図 1. 企画創造シート

4. 実証実験

青山学院大学社会情報学部生の、プロジェクト演習入門 I² 受講者 39 グループに対して企画創造シートを利用させ、企業への企画を作成させた。その企画の質を、テーマの提供企業の担当者、および教員が評価した結果を分析した。

5. 実験結果と考察

企画創造シートのチェック項目を、十全に利用したチームと、一部しか利用しなかった学生では、企画創造シートの利用度合いと評価の間に、直接的な相関は存在しなかった。しかし、高評価のチームはすべてのチェックポイントを抑えて企画を作成していた(図 2)。企画創造シートの効果としては、より質の高い企画の作成を促す効果がある。

6. PBL のためのツールの作成

今回の実験では、複数のチームが、与えられた企画創造シートを利用しなかった。図 2 に示されるように、質の高い企画を作成するために

² PBL 科目。行政や企業から与えられたテーマに対して、学生が考えた提案を、行政や企業の担当者に直接プレゼンテーションする講義。

は、意識すべきチェックポイントを、理解させる必要がある。そのためにも、企画創造を補助するシステムの構築の必要性がある。そこで、企画創造の補助と合わせて、複数の教員間での指導状況の共有を行うこと、他のチームとの競争意識を与えること、企画立案の過程を可視化すること等を可能とした PBL 支援ツールの作成している。

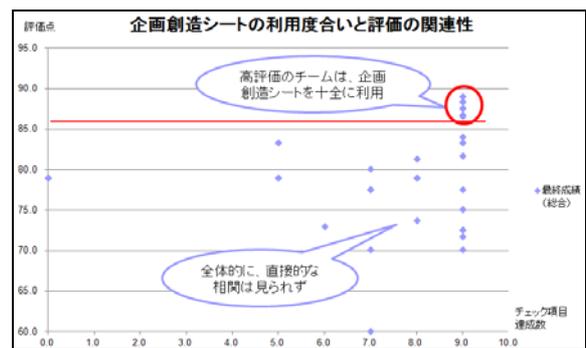


図 2. 企画創造シートの利用度合いと評価の関連性

7. 今後の展望

作成した PBL 支援ツールを利用した場合の、学生の企画の質の分析を行い、本実験との比較検討を行う。また、今回作成した企画創造シートのチェック項目の中には、「資金に見合った計画であるか」等、学生には認識しにくい項目も存在した。大学生のためのツールとして、より項目を洗練することも必要である。

終わりに

本稿では、企画に必要な複数のチェックポイントを踏まえたうえで、思いつきをアイデアに、アイデアを企画に昇華させ、企画を作成する手法の効果として、質の高い企画の作成に関して考察を得られた。今回の実験結果を踏まえ、大学生のための PBL 支援ツールを作成したい。

参考文献

- [1] 九州工科大学「PBL (Project-Based Learning 課題解決型学習) 教育とは」
<http://www.mns.kyutech.ac.jp/~nakao-m/pbl/about.html> (2014/12/19 アクセス)
- [2] 星野匡『企画の立て方』日本経済新聞社
- [3] 多湖輝『企画力』光文社文庫
- [4] 高橋憲行『企画力』実務教育出版
- [5] 小泉俊一『企画の立て方』日本経済新聞社